

町小だより

令和6年
12月20日
No. 692
御免町小学校

笠地蔵

校長 相澤 祐助

もうすぐ年末です。令和6年、辰年が暮れようとしています。今年の元日には、能登半島地震が発生し、大きな被害が石川県、そして新潟市にも及びました。改めて、被災された皆様方に対し心よりお見舞い申し上げます。一日も早い、復興を願っています。

さて、年の瀬になると私は、一つの昔話をいつも思い浮かべます。とある雪国に、心の優しいおじいさんとおばあさんが仲良く、つつましく暮らしていますが、二人は貧しいため、明日が新年だということにお餅を買うお金がありません。そこで二人は笠を5つ編んで、それを売ったお金でお餅を買おうとおじいさんは町へ出かけるというお話です。誰もが知っている有名なお話です。結局、誰もおじいさんの笠には目もくれません。大みそかの市場はおじいさん一人になってしまいます。仕方なく笠を売るのをあきらめて家に帰ります。すると道の途中、吹雪にさらされた6体のお地蔵さんが目に入りました。そのお地蔵さんに売れなかった笠をかぶせてあげ、足りないお地蔵さんには、おじいさんの手ぬぐいをかぶせてあげます。「使い古しでもうしわけないが・・・」と。

この昔話ですごいのは、心の優しいおじいさんですが、それ以上におばあさんです。二人で作った笠が売れないこと、その笠をお地蔵さんにかぶせてきたことを、全く責めないのです。「それは良いことをしましたね」とおじいさんの労をねぎらい、喜んでいるのです。

二人に共通しているのは、誰かのためにがんばっていることを認める、その行動と思いやりです。私は、今年の4月の学校だよりで、「誰かのために」という話を書きました。この「誰かのために」というのは、「見返り」を期待するものでは決してありません。「お地蔵さんのために何かしたい」という「優しさ」です。そして、その「誰かのために行った優しい行為」を温かく認めてあげること、これが一番大切な「こころ」ではないかと思います。

御免町小学校では、毎朝、児童玄関や階段を掃除してくれる子たちがいます。仲間と声をかけあつての「朝活」です。おかげで、綿埃が少なくなっています。給食運搬の里村さんが、「最近、空中に舞っているほこりが少ないですね。給食にとってはありがたいです」とおっしゃっていました。また、毎朝、児童玄関前の落ち葉を掃除してくれる用務手の山田さんにも頭が下がります。冷たい雨の中でも、松葉や広葉樹の葉をきれいに掃いてくれます。いくら仕事とはいえ、大変なことに違いありません。まさに、「町小のために」動いている人がいます。この他にも、放送委員会、栽培委員会、イベント委員会など、たくさんの児童も町小のみんなのために活動してくれています。この誰かのための行動が、人と人をつなぐのです。

さあ、令和6年が終わり、令和7年が始まります。あと数日、誰かのために活動し、素晴らしい新年を迎えることができますように。